

Q9. 入社したきっかけを教えてください。

私は和歌山リビング新聞社に勤めて 12 年になります。元々大阪の新聞社出版社で働いていたのですが、少し疲れてきたなと思っていた時に、出身が和歌山なので縁があってこちらを紹介してもらい入社することになりました。

Q10. フリーマガジン「LiSM」について教えてください。

LiSM はフリーマガジンで、毎月 25 日に発行しています。来年の 2 月に 20 周年を迎えます。和歌山でアクティブな日常を過ごし能動的な生き方を楽しむ人に向けて、地元の会社が地元の情報を発信しているというのが一番の特徴です。発行部数は 5 万 3000 部で現在Instagramにも力を入れており、2 万人のフォロワーを抱えています。そこから情報を入手してくださった方々の 93%が、何らかのアクションを起こしてくださっているというデータも出ています。

Q11. 企画から取材、編集、発行までの流れについて教えてください。

編集部のスタッフ全員で企画案を持ち寄って企画会議を行います。4 月から 9 月、10 月から 3 月の半期ごとのテーマをみんなで一緒に考えます。地域性や話題性、ニュースソース、季節感などを鑑みて、毎月のテーマを設定していきます。さらに、その紙面を出すことで読者にアクションを起こしてもらえる内容か、そのターゲットはどの年代に絞るか等もさらに考えながら内容をブラッシュアップさせていきます。実際にそのエリアに足を運んでお店を調査したり、街の人にお話を聞いたりして、より具体的に企画を練っていきます。テーマと掲載する店舗が確定してきたら、20 ページ程ある特集の中で同じような切り口では面白くないので、どう変化をつけて見せていくか、どういう紙面の見せ方をするかについて、LiSMに携わっている編集部のスタッフ、デザイナーで話し合います。「ラフ」といいますが、イメージが固まってきたら、お店に電話をしてアポイントを取って取材という形になります。そして取材した原稿と撮影してきた写真をデザイナーに渡して紙面に組んでもらい、その内容で良いかどうかお店の確認を取ります。それでOKをもらってから今度は全ページ通して、もう 1 度チェックをして、印刷所にデータを渡すという形になります。

Q12. お仕事の中で一番大切にしていることは何ですか。

今はインターネットで、誰もが情報を調べられる時代で、逆に誰もがライターやカメラマンになれる時代だと思います。だからこそ、プロ意識を持って仕事をしたいなと思っています。編集部のスタッフみんなにも、そうしてもらいたいと常日頃思っています。何がプロ意識かと言われると、まずは真実で正しい情報を伝える事だと思っています。インターネットの情報は憶測で書かれた記事であったり、誰かから聞いた伝聞記事であったり、正しくない情報がいっぱいあるので、そこはメディアとして、正しい情報を伝えることは、絶対に徹底したいと思っています。では何が正しいのかと言われると、やはり実際にお店に足を運んで取材し、そのオーナーさんや店長さん、お店で働く人々にお話を聞いて、見聞きした情報であること。あとは編集者として、そのお店をどう思ったか、どういう捉え方をしたかという情報をお伝えしたいといつも思っています。今、紙媒体からWebへとだんだん情報網が移行されていますが、紙媒体だから、Webだからではなく、やはり情報は正しいものを伝えるべきであると思っています。私自身、編集という仕事をしてきた中で、またこれから続けていく中で、すごく大切にしたいのは「聞く力」です。常に養っていききたいと

思っています。取材は相手に話をしてもらわないと何も分からない、それ以上進まないの
で、気持ちよくお話してもらおう為には、こちらもお店のことを調べて行かないといけない。
お店の人にいきなり「このお店どんなお店ですか」というのでは、返ってこないのです。世間
話や同じレベルでの話ができるよう、いつも考えています。そのためには色々な情報に耳
を傾けたり、自分の知識を増やしたりということは、怠ってはいけないと思っています。

Q13. 雑誌を作る仕事を目指す上で学生時代にやっておいた方がいいことはありますか。

少し古臭いかもしれませんが、新聞を読むとか。今は多分皆さんあまり新聞を読まなく
て、インターネットで何もかも調べてしまうと思うのですが、やはり新聞の原稿は、すごく
上手に書かれていると思います。本を読んだり、新聞を読んだり、情報に敏感になるとい
う感じですかね。自分に興味がある事は勿論ですが、あまり興味がなくても、今世間で流
行っている事を知っておいた方がいいと思います。

Q14. 就職活動する学生にアドバイスをいただけますか。

今の学生さん達は、私の時代とは違って、小さな頃から色々なものに触れて、学んで、
目的や自分の将来像を持って、進学から就職まで考えている人が、すごく多いと感じてい
ます。ただ好きなことを仕事にできる人は多分少なくて、せつかく好きと思えることを仕
事にできたとしても、やっているうちに、やっぱり嫌いかも、向いてないかもと感じる人も
多いと思います。私も編集という仕事が好きで、この仕事についたわけではなく、もとも
と全然違う仕事をしていましたが、縁があってこういう業界に来ました。最初から楽しか
ったわけでもなく、好きと思ったこともなければ、泣きながら原稿を書いていた時代もあ
るし、書き直してと怒られることもありました。ただ続けていく中で、楽しくなってきたと
ころがあって。私は人見知りで、初対面の人と話しをするのは結構苦手です。プライベート
では、極力それを避けたいなと思っています。でも仕事に関しては、全然大人見知りが出な
い。積極的に聞くし、話すし次から次へと話を聞いたりします。それは、この仕事をしてい
く上で、できるようになってきたことだと思っています。取材の相手に色々話を聞いたことは、
自分の知識になっていくというか、ちょっと物知りになれたような気分になれる、そうい
うことも楽しいと思っています。それに、新聞とか本とか小説とか、大嫌いな子で、学生時
代、小学生の頃は読書感想文も作文も苦手でした。いざこういう仕事につくと、意外に文
章を書くことが好きだったと、気づいたんです。今、働き方について色々言われる中で、
給料は勿論、福利厚生、職場環境など、皆さん気にして就職活動をされると思います。勿
論それも大事ですが、自分にとって何か楽しいを見つけられる場所、素直に自分が出せる
場所、そんな仕事を見つけれたらいいんじゃないかと思っています。